

第10回 BELCA賞ロングライフ部門表彰物件

最高裁判所庁舎

所在地：東京都千代田区隼町4-2
用途：裁判所
竣工：1974年
所有者：最高裁判所
設計者：株式会社 岡田新一設計事務所
施工者：鹿島建設株式会社
維持管理者：最高裁判所



司法の最高機関の建物として1968年の設計競技最優秀案を元に基本設計、実施設計を経て1974年に竣工したもので、皇居を前にして、内堀通りに面し、国会図書館と国立劇場に隣接している落ち着いた豊かな地区に建てられている。

建物は品位と重厚さを旨とし、大ホール、大法廷、小法廷からなる中心空間と、最高裁判所としての機能を発揮させるための裁判官部門、行政事務部門を二つの軸線上に中庭を囲むように配置されている。

建築のデザインの基本コンセプトとして、大法廷、小法廷や大ホールの無柱空間を造る手法として二重壁（スペースウォール）を採用し、尚、且つ、この二重壁は設備、階段、エレベータ、廊下を含むサービススペースを構成している。建築的モチーフとしては御影石、アルミ金属、木、織物、装飾的小道具など長寿命であり且つ、自然である素材を用いている。

建物の外部および内部は維持保全が十分なされ、みじんも時間の経過を感じさせず、竣工当時の状態と思われる雰囲気を出している。具体的な維持管理の状態は竣工後15、6年の早い時期から建築改修、設備機器更新が計画的に実施されており、各機械室のアスベストの除去も行われている。また、庁舎内の使用状況に合わせて、小負荷用の冷凍機を新たに設置したり、照明や空調の運転をきめ細かくコントロールし、省エネルギーにも配慮している。

二重壁を用いた手法は大空間を構築すると同時に、社会の変化や耐用年数の短い設備システムに対して容易に変更、補修、更新が出来、長寿命の骨組みが出来ている建物と言える。また、内外に用いられている材料は十分耐用性のある御影石、アルミ金属、木等が使われている。竣工後26年であるが、所有者、維持管理者の適切な計画的保全と相まって、今後、100年以上の長寿命を期待できる BELCA 賞に相応しい建物であると思われる。